

地域学校協働活動推進員養成講座 第Ⅱ期

学びは学校だけではない！！

12月6日(水)、庄内教育事務所を会場に「地域学校協働活動推進員養成講座 第Ⅱ期」を開催しました。今年度は、鶴岡市立渡前小学校地域学校協働活動推進員の太田功さんより「渡前小の取組み」と題して事例発表をしていただきました。今年で85回を数える「海浜学校」や「渡前子ども獅子踊り」の伝承活動の歴史を伺い、学校と地域が協働して学びを作り上げていくことの大切さを実感できました。また、推進員としての学校や地域への働きかけ方や、太田さんの地域学校協働活動に対する思いや考え方についてもお話いただきました。

後半のグループディスカッションでは、「学校や地域への関わり方について」をテーマに現状や課題について、活発な話し合いが行われました。太田さんには、グループを回りながら、参加者の悩みや疑問に答えていただきました。太田さんとの対話を通して、日頃から感じている悩みや疑問解決のヒントを得た参加者も多くいたようです。

アンケートでは、「学校と地域をつなぐ様々な動きをわかりやすく学ぶことができた」「人材の確保が課題だったが、楽しいことをみんなで共有するような気持ちで誘っていききたい」などの声があり、参加者それぞれの立場での学校や地域への関わり方を改めて考える機会となりました。(担当:齋藤)

伝統芸能育成事業 子ども伝承活動「ふるさと塾」

「ふるさと山形」のよさを伝えよう！

県教育委員会では、子どもたちの「ふるさと山形」に対する理解と愛着を育むことにより、未来へ広がる「やまがた」を創り上げることを大きな目的とし、地域文化や自然などを教え合い、学び合いながら伝承していく「ふるさと塾」という活動を行っています。「ふるさと塾」には、以下のような事業があります。

○ふるさと塾出前講座

学校や地域で、「ふるさと塾賛同団体」を講師に迎えて、子どもたちに伝承活動を行います。令和5年度、庄内では9つの団体が出前講座を行いました。

○ふるさと塾アーカイブス

ふるさと塾賛同団体の伝承活動の様子を「ふるさと塾アーカイブス」サイトで公開しています。また、山形県自作視聴覚教材コンクールの優秀作品も公開しています。今年度は、鶴岡市立渡前小学校「子ども獅子踊り」の伝承活動の様子を撮影しました。近日中に「ふるさと塾アーカイブス」のホームページで公開されます。

詳細は、庄内教育事務所ホームページ内にある「庄内地区社会教育情報」をご覧ください。(担当:齋藤)



家庭教育出前講座

ちがっていい！理解すればやさしくなれる

12月14日(木)、余目第四まちづくりセンターで家庭教育出前講座を開催しました。庄内町民生委員・児童委員協議会の皆さんを対象に、同協議会の定例会で実施していただきました。講師は、鶴岡市在住の「花笠ほ一ぶ隊(知的・発達障害理解啓発キャラバン)」の長谷川薫さん、高橋幸さんです。演題は「みんなちがってみんないい～みんなにやさしいまちづくり～」でした。

障がいの有無にかかわらず、みんなが同じように過ごせる「共生社会」を目指すには、障がいのある人の特徴や気持ちについて理解することが大切であることを学びました。障がいのある人たちの気持ちや感覚について、講話や疑似体験等を通して学ぶ貴重な講座となりました。子どもから大人まで、すべての人が「自分と相手とのちがいを理解すれば、みんなにやさしくできることにつながります。今回の講座が、みんなにやさしいまちづくりへの第一歩になったことと思います。(担当:高橋)

《疑似体験》

- ①「描いてみよう」→絵に描きにくい言葉は、伝わりにくい。
- ②「探してみよう」→一つの物に集中すると、他の物は目に入らない。
- ③「これなあに」→同じ物を、みんなが同じように見ているとは限らない。
- ④「後出しじゃんけん」→目で見て頭で処理するまで時間がかかる。
- ⑤「軍手でお花紙を開こう」→手先の不自由さと、優しく待ってもらおう体験。
- ⑥「伝えてみよう」→伝えたい思いが伝わらないときの気持ちの体験。

《講座の様子・参加者の声》



障がいのある方の立場でどう見えたり感じたりするのか、具体的で分かりやすかったです。



このような講座を子どもたちや学校の先生にも広めてほしいです。



目に見えない障がいって、いっぱいあるんだと、体験を通して知ることができました。



生活している環境を変えることで大勢の人々により良い状態を与えることができる「合理的配慮」の考え方を大切にしていきたいです。



庄内教育事務所 社会教育課
【公式】Instagram
各種研修会、事業等の情報をお届けします！



庄内地区社会教育情報
ホームページはこちら！➡

